

文型と品詞の解説

1. 文型

文の要素には、

- 1.主語 (S) … 名詞・代名詞
- 2.動詞 (V) … 動詞・助動詞＋動詞
- 3.補語 (C) … 名詞・代名詞・形容詞
- 4.目的語 (O) … 名詞・代名詞
- 5.修飾語 … 形容詞・副詞

がありますが、これらを組み合わせることによって英文が成り立ちます。その組み合わせによって、英文を5つに分けることができます。

2. 品詞

品詞は大きく分けて8種類あります。

- 1.名 詞 … 物や事柄を表す語。
- 2.代名詞 … 名詞の代わりをする語。
- 3.動 詞 … 動作・状態を表す語。
- 4.形容詞 … 物の性質・状態を表す語。
- 5.副 詞 … 時間・場所を表す語。
- 6.前置詞 … at, for, to などの語。
- 7.接続詞 … 語や文をくっつける語。
- 8.間投詞 … 感情を表す語。

これ以外に、疑問詞と冠詞がありますが、「疑問詞→代名詞」、「冠詞→形容詞」にそれぞれ含めることが出来ます。たくさんあって混乱してしまいそうですが、それぞれの働きを理解して下さい。

第1文型

第1文型とは

第1文型は、文型の中でも一番単純な「S+V」（主語＋動詞）の形をした文です。しかし、修飾語（句）を伴って複雑になることがほとんどで、簡単とはいいにくいです。早速例文を紹介します。

例文：

I run. (私は走ります。)

これは簡単ですね。S と V しかありません。ではこれに、修飾語を加えてみましょう。修飾語とは、形容詞や副詞のことです。

例文：

I run very fast.

(私はとても速く 走ります。)

「とても速く → 走る」となり、走る（run）という動詞を詳しく説明しているので、とても速く（very fast）は副詞句です。副詞句は修飾語の働きをするので、この文は、

⇒ I run very fast.

S V 修飾語句

このように理解することができます。

第2文型

1. 第2文型とは

第2文型は「S+V+C」（主語+動詞+補語）の形です。第2文型は、第1文型「S+V」に補語（C）が加わった文型です。S=Cの関係が成り立つのが特徴です。

例文：

I am a student.

（私は生徒です。）

S（私）=C（生徒）なので、これは第2文型です。
では次の例文です。

例文：

She became a dentist.

（彼女は歯科医になりました。）

S（彼女）=C（歯科医）なので、これも第2文型です。

次は、この文に修飾語を加えてみましょう。

例文：

She became a dentist in America.

（彼女はアメリカで歯科医になりました。）

「アメリカで → になりました。」

というように、in America は became を詳しく説明しているので副詞（修飾語）の働きをしています。この文は下のように解釈することができます。

⇒ She became a dentist in America.

S V C 修飾語句

第2文型の特徴である、S（彼女）=C（歯科医）にもあてはまります。

2. 第2文型で使われる動詞

第2文型は S=C となるために、使われる動詞がある程度決まっています。それらの動詞を紹介します。

1 「～である」状態を表す動詞

例えば、次のような動詞です。

- be 動詞
- look (～に見える)
- appear (～に見える) 等

例文：

I am very tired.

(私は大変疲れています。)

※私＝疲れている

The book was interesting.

(その本はおもしろかったです。)

※本＝おもしろい

You look pale.

(あなたは顔色が悪いです。)

※あなた＝顔色が悪い

He appeared well.

(彼は調子がよさそうでした。)

※彼＝調子がよい

2 「～になる」を表す動詞

例えば、次のような動詞です。

- become (～になる)
- grow (～になる)
- get (～になる) 等

例文：

My brother became a lawyer.

(私の兄は弁護士になりました。)

※私の兄＝弁護士

The tree grew thin.

(その木はやせこけました。)

※木＝やせこけた

My father got angry.

(私の父は怒りました。)

※父＝怒っている

3 「感覚」を表す動詞

例えば、次のような動詞です。

- smell (～の匂いがする)
- feel (～の感じがする)
- taste (～の味がする) 等

例文：

This eraser smells nice.

(この消しゴムはすてきな匂いがします。)

※消しゴム＝すてきな匂い

I feel cold.

(私は寒気がします。)

※私＝寒気をする

It tastes too hot.

(それは辛すぎます。)

※それ＝辛い 等

これらの動詞を覚えて、文型の判別に役立てて下さい。

第3文型

1. 第3文型とは

第3文型は「S+V+O」（主語+動詞+目的語）の形です。第3文型は、第1文型「S+V」に目的語（O）が加わった文型です。目的語をとる（動詞の対象となる語）のが特徴です。

目的語になるのは、名詞や代名詞がほとんどです。動詞の直前にあり、「～を」「～に」の、「～」の部分が目的語である、と考えると理解しやすいです。動作の対象となる語を見つけ、さらに「～を」「～に」の部分と照らし合わせると目的語は探しやすいと思います。

また、第2文型と混乱する人がたまにいますが、第2文型はS+V+Cの文でS=Cであったのに対し、第3文型はS+V+Oの文でS≠Oです。

例文：

I watched TV last night.

（私は昨日テレビをみました。）

まず、この場合の動作は、みました（watched）ですが、テレビ（TV）が動作の対象になっているのがわかりますか。

「みました」

→ （じゃあ何をみたの？）

→ テレビをみました

このように理解して下さい。

次に、上記した「～を」「～に」に照らし合わせて下さい。この文は「テレビを」となっているので、「テレビ」が「～」に相当します。

よって、テレビが目的語です。第3文型の特徴である、「S（私）≠ O（テレビ）」の関係にもなっています。

また、「昨日 → みた」というふうに、“いつ”という情報を加えて、“みた”という動作を詳しく説明しています。動詞を修飾しているので、昨日（last night）は副詞（修飾語）です。従って、この文は下のように理解することができます。

⇒ I watched TV last night.
S V O 修飾語

では、次の例文にいきたいと思います。

例文：

We eat tempura every day.
(私たちは毎日天ぷらを食べます。)

体に悪そうなこの文では、動作（eat）の対象は天ぷら（tempura）です。そして、「天ぷらを」とあるので、「天ぷら」が目的語です。

また、「毎日」は「食べる」という動詞を詳しく説明しているので、毎日（every day）は副詞です。よって、この文は

⇒ We eat tempura every day.
S V O 修飾語句

このように理解することができます。

2. 第3文型の不定詞と動名詞

第3文型では不定詞や動名詞が使われることがあります。

1 不定詞が使われるパターン

不定詞とは、「to +～」の形をしたもので、3つの用法がありました。ここでは、名詞的用法が使われます。

例文：

I like to sing.

(私は歌うことが好きです。)

動作の対象は、

「好き → (何が好き?) → 歌うこと」

となるので、歌うこと (to sing) です。

また、少し強引ですが、この日本語訳を、「私は歌うことを好みます。」と訳すと「～を」の部分ができるので、「歌うこと」が目的語です。よって、この文は、

⇒ I like to sing.
S V O

S+V+O の第3文型です。第3文型の特徴である「S (私) ≠ O (歌うこと)」にもなっています。

2 動名詞が使われるパターン

動名詞とは、「～+ ing」の形をしたものです。

例文：

He likes playing soccer.

(彼はサッカーをするのが好きです。)

動作の対象は、

「好き → (何が好き?) → サッカーをする」

となるので、サッカーをする (playing soccer) です。

また、これも日本語をすこし変えて、「彼はサッカーをすることを好みます。」としてみましょう。すると、「～を」の部分ができるので、「サッカーをすること」が目的語です。よって、この文は、

⇒ He likes playing soccer.
S V O

S+V+O の第3文型です。第3文型の特徴である「S（彼）≠ O（サッカーをすること）」にもなっています。

第4文型

1. 第4文型とは

第4文型は「S+V+O（人）+O（物）」（主語+動詞+間接目的語+直接目的語）の形です。

第4文型は、第3文型に目的語（O）が加わった文型です。主語+動詞+人+物の形になるのが特徴です。この場合の人と物が目的語となり、「（人）に（物）を～する。」という意味になります。

そして、「～（人）に」の目的語を間接目的語、「～（物）を」の目的語を直接目的語と区別します。

また、第5文型と混乱する人がたまにいますが、第5文型が S+V+O+C の文で O=C であったのに対し、第4文型は S+V+O+O の文で O≠O です。例文を挙げます。

例文：

I gave my mother flowers on Mother's Day.

（母の日に私は母に花をあげました。）

この文では、

間接目的語＝母（my mother）

直接目的語＝花（flowers）

となります。

また、“いつ”という情報を加えて“あげた”を修飾している「母の日に（on Mother's Day）」は副詞です。以上のことから、この例文は次のようになります。

I gave my mother flowers on Mother's Day.

S V O（人） O（物） 修飾語

では、もう1つ buy で例文を挙げます。

例文：

Mariko will buy me a new CD for my birthday.

(私の誕生日にマリコは私に新しい CD を買ってくれる予定です。)

さて、この友達想いの文ですが、

間接目的語＝私(me)

直接目的語＝新しい CD(a new CD)

このように区別できます。

そしてこの文でも、“買う” という行動を修飾している「誕生日に(for my birthday)」は副詞です。

Mariko will buy me a new CD for my birthday.

S	V	O	O	修飾語
		(人)	(物)	

S+V+O+O と覚えるより、S+V+人+物と覚えたほうが楽かもしれませんね。

2. 第4文型の書き換え

第4文型は第3文型に書き換えることができます。

それは、 S+V+O (人) +O (物) の第4文型を、

→ S+V+O (物) + to +O (人) ～

→ S+V+O (物) + for +O (人) ～

の形にすることです。

to になるのか for になるのかは、動詞で判断します。

○ S+V+O (物) + to +O (人) ～

to の書き換えでよく出てくる動詞は、 give (与える) show (見せる) teach (教える) lend (貸す) 等です。これらの動詞は、物が移動するという感覚でしょうか。

では例文です。第4文型を第3文型に書き換えます。

例文：

He gave his parents a house last year.

(彼は両親に家を与えました。)

さて、この太っ腹の彼の文ですが、

間接目的語＝両親(his parents)

直接目的語＝家(a house)

となるので、順番を入れ替えて間に to を入れます。

⇒ He gave a house to his parents last year.

これが正解です。どうですか、意外と簡単だと思います。では、残りの動詞で例文を作りましょう。

例文：

[第4文型]

She showed me a picture.

[第3文型]

She showed a picture to me.

(彼女は私に写真を見せてくれました。)

[第4文型]

Mr. Tanaka teaches us English at school.

[第3文型]

Mr. Tanaka teaches English to us at school

(田中先生は学校で私たちに英語を教えています。)

[第4文型]

I lent him my car.

[第3文型]

I lent my car to him.

(私は彼に車を貸しました。)

○ S+V+O (物) + for +O (人) ～

for の書き換えでよく出てくる動詞は、buy (買う) cook (料理する) make (作る) 等です。これらの動詞は、誰かのために何かをしてあげるといった感覚でしょうか。では例文です。第4文型を第3文型に書き換えます。

例文：

My sister bought me a new computer yesterday.

(昨日妹は私に新しいコンピューターを買ってくれました。)

さて、兄想いの妹の文ですが、

間接目的語＝私(me)

直接目的語＝新しいコンピューター(a new computer)

となるので、順番を入れ替えて間に for を入れます。

⇒ My sister bought a new computer for me yesterday.

これが正解です。では、残りの動詞で例文を作りましょう。

例文：

[第4文型]

She cooked me spaghetti for dinner last night.

[第3文型]

She cooked spaghetti for me for dinner last night.

(昨晚夕食に彼女は私にスパゲッティを作ってくれました。)

[第4文型]

My father made me a bookshelf.

[第3文型]

My father made a bookshelf for me.

(私の父は私に本棚を作ってくれました。)

第5文型

1. 第5文型とは

第5文型は、「S+V+O+C」(主語+動詞+目的語+補語)の形をした文のことです。

第4文型の直接目的語(O)が補語(C)に変わった文型で、O=Cの形になるのが特徴です。

第4文型と混乱する人がたまにいますが、第4文型はS+V+O+Oの文でO≠Oであったのに対し、第5文型はS+V+O+Cの文でO=Cです。

ちなみに、Let's ~. や There is ~. の文も第5文型です。では、実際に第5文型の文を紹介していきます。

例文：

We call him Matcho.

(私たちは彼をマッチョと呼びます。)

どれだけ筋肉質なんでしょうか。ちなみに、Matcho は英語ではありません。この場合は、彼のあだ名が Matcho です。ということは、

彼(him) = マッチョ(Matcho)

⇒ We call him Matcho

S V O C

ということになります。従って、O=C が成り立ちますので、これは第5文型という事がわかります。

では、次の例文です。

例文：

I named my dog Terminator.

(私はペットの犬にターミネーターと名づけました。)

⇒ I named my dog Terminator.
 S V O C

この最強の犬の文は、「ペットの犬（my dog）」＝「ターミネーター（Terminator）」
 ですので、O=C が成り立ちます。よって、この文は第5文型です。

2. 第5文型で使われる動詞

第5文型で使われる動詞はある程度パターンが決まっています。では、紹介したいと思います。

○ 人（生き物）に何かをする動詞

上に出ている例文の call（呼ぶ）、name（名づける）もここに属します。他には、elect（選ぶ）などがあります。

例文：

They elected him chairperson.

（彼らは彼を議長に選びました。）

彼（him）＝議長（chairperson）ですので、第5文型です。

○ 頭のなかで思う動詞

ここでよく使う動詞は、think（思う） find（わかる） believe（信じる）等です。

例文：

He thinks himself handsome.

（彼は自分がハンサムだと思っています。）

たまにいますね、こういう方。

この場合、自分（himself）＝ハンサム（handsome）となり、O=C で第5文型です。

では、find と believe でも例文を挙げますので、参考にして下さい。

例文：

I found it true.

O（それ）＝C（真実）

（私はそれが真実だとわかりました。）

I believe her honest.

O（彼女）＝C（正直）

（私は彼女は正直だろうと信じています。）

○ 状態を変えたり維持したりする動詞

ここでよく使う動詞は、make（～にする） keep（～にしておく） leave（～にしておく）等です。

例文：

The news made me happy.

（私はその知らせを聞いて喜びました。）

よくある例文です。この場合、私（me）＝喜び（happy）となり、O＝Cで第5文型です。直訳すると、「その知らせが私を喜ばせました。」となりますが、自然な日本語にしたほうがいいです。

では、残りの動詞の例文です。

例文：

Please keep the electric fan running.

O（扇風機）＝C（ついたまま）

（扇風機をついたままにして下さい。）

Don't leave the light on.

O（電気）＝C（ついたまま）

（電気をついたままにしてはいけません。）

現在完了

1. 現在完了

1 現在完了の形

have＋過去分詞

現在完了で使う **have** は動詞でなく助動詞です。もし過去分詞に **had** を使えば、**have** が連続する文になります。

例文：

I have had it for two years.

(私はそれを二年間所有しています。)

また、主語が3人称単数ならば、**has**＋過去分詞 の形にします。

例文：

She has had it for two years.

(彼女はそれを二年間所有しています。)

2 現在完了の意味

現在完了の意味は4つあります。

- 継続
- 経験
- 完了
- 結果

この4つです。現在形や過去形は、それぞれ現在の事と過去の事を言い表していますが、現在完了は過去～現在にまたがる事を表現します。

現在完了のポイントは、4つの意味を理解して使い分けることと、過去分詞を覚えることです。

2. 現在完了の英作文

現在完了の **have** が助動詞であるので、**can** 等の助動詞と英作方法は同じです。

1 肯定文

主語＋have＋過去分詞＋～.

例文：

He has lost his purse.

(彼は財布を無くしました。)

※ちなみにこの文は結果の意味です。

2 否定文

主語＋have not ＋過去分詞＋～.

have の直後に not をつけます。

例文：

I have not been to Europe.

(私はヨーロッパに行ったことはありません。)

※ちなみにこの文は経験の意味です。

3 疑問文

Have＋主語＋過去分詞＋～?

have を文頭に持っていきます。

例文：

Have you finished your homework?

(宿題は終わりましたか。)

※ちなみにこの文は完了の意味です。

「はい」の場合

Yes, +主語＋ have.

「いいえ」の場合

No, +主語＋ have not (haven't).

助動詞の疑問文なので、答えも助動詞で答えます。すぐ上の疑問文に答えてみます。

答え方：

Yes, I have.

(はい、終わりました。)

No, I have not (haven't).

(いいえ、終わっていません。)

現在完了（完了）

1. 現在完了（完了）の用法

現在完了の基礎は現在完了を参考にして下さい。

1 現在完了（完了）の意味

昔からやってきたことがいま終わったことを意味します。「～した」と訳すので、慣れるまで過去形との区別がつきにくいです。では例文を挙げます。

例文：

[肯定文]

He has finished his homework.

（彼は宿題を終えました。）

[否定文]

He hasn't finished his homework.

（彼は宿題を終えていません。）

[疑問文]

Has he finished his homework?

（彼は宿題を終えましたか。）

[答え]

Yes, he has.

（はい、終えました。）

No, he has not.

（いいえ、終えていません。）

2 過去形との違い

次の2文を見比べて下さい。

[過去形]

I finished my homework.

(私は宿題を終えました。)

→ すでに過去のある時点で終えている

[現在完了]

I have finished my homework.

(私は宿題を終えました。)

→ ちょうどいま終えた

過去形は昔のある時期のことを表すので、例えばこの文は、宿題を終えた後、私が公園で遊んでいるときのセリフかもしれません。

一方、過去から現在までの継続を表す現在完了は、その状態が続いて、今終わったことを意味します。例えばこの文は、たくさんの夏休みの宿題が終わり、机の上で喜びと達成感に満たされながら言ったセリフかもしれません。

とはいっても、始めは区別しにくいかもしれません。でも安心して下さい。次に挙げる語と一緒に使われることが多いので、日本語でも感覚がつかみやすくなります。

2. 現在完了（完了）でよく使われる語

1 just （ちょうど今）

過去分詞の直前に置きます。

例文：

I have just finished my homework.

（私はちょうど今宿題を終えました。）

1. であげた例文に **just** をつけた形ですが、これだと完了の感覚がピンときますね。

2 yet （まだ、もう）

たいていは文末に置きます。否定文と疑問文で使います。

否定の例文：

I have not finished my homework yet.

（私はまだ宿題が終わっていません。）

否定文では「まだ」の意味で使われます。宿題を絶対に先にやる人と、とりあえず後回しにする人がいますよね。私は後回し派でした。

疑問の例文：

Have you finished your homework yet.

（あなたはもう宿題を終えたのですか。）

疑問文では「もう」の意味で使われます。いますよね、こういう方。夏休みの課題だというのに、夏休みが入る前にほとんど終わらせたり。

3 already （すでに、もう）

過去分詞の直前に置きます。肯定文と疑問文で使います。

肯定の例文：

They have already gotten to Japan.

(彼らはすでに日本に帰っています。)

肯定文では「すでに」の意味で使われます。

疑問の例文：

Have you already walked 100 kilometers?

(あなたはもう100キロも歩いたのですか。)

疑問文では「もう歩いたの、速いねえ。」の気持ちが込められています。

現在完了（経験）

1. 現在完了（経験）の用法

現在完了の基礎は現在完了を参考にして下さい。

現在完了（完了）の意味

昔から今までに経験していることを表現するときに使います。「～したことがある」と訳することができるので、現在完了の4つの意味の中で見分けるのが一番簡単です。では例文です。

例文：

I have been to India.

（私はインドに行ったことがある。）

この **have been to**+場所 は経験を表す代表格です。国や地域の単語と現在完了が使われていたら、まず「経験」であると思って下さい。

ではこの文の、否定文と疑問文も挙げておきます。否定文は **have not** の形にし、疑問文は **have** を文頭に出します。

[否定文]

I have not been to India.

（彼はインドに行ったことはありません。）

[疑問文]

Have I been to India?

（私はインドに行ったことがありますか。）

[答え]

Yes, you have.

（はい、行ったことがあります。）

No, you have not.

（いいえ、行ったことはありません。）

2. 現在完了（経験）でよく使われる語

1 before （以前）

ほとんどの場合文末で使います。

例文：

We have been to Okinawa on a school trip before.

（私たちは以前修学旅行で沖縄に行ったことがある。）

いまでは海外に修学旅行に行く学校が多いですね。中学校で海外に行く学校はあるのでしょうか。

2 yet （まだ、もう）

たいていは文末に置きます。否定文で使います。

例文：

I have not been to Okinawa yet.

（私はまだ沖縄に行ったことはありません。）

3 ever （かつて）

過去分詞の直前に置きます。疑問文で使います。

例文：

Have you ever been to Mexico?

（あなたはかつてメキシコに行ったことがありますか。）

答え方ですが、**ever** を使ったからといって、答えに特別な語が必要になることはありません。

[答え]

Yes, I have.

（はい、行ったことがあります。）

No, I have not.

(いいえ、行ったことはありません。)

4 never (1度も～ない)

過去分詞の直前に置きます。否定文で **not** のかわりに **never** を使うことがあります。

例文：

He has never been to China.

(彼は中国に行ったことが1度もありません。)

5 How often + 現在完了の疑問文 (何回～)

経験の頻度を尋ねる場合に使われます。

例文：

How often have you been to America?

(あなたは何回アメリカ行ったことがありますか。)

答え方ですが、文で答えても、回数だけで答えても構いません。

[肯定の答え]

I have been to America once.

(私は1回アメリカに行ったことがあります。)

Once.

(1回です。)

[否定の答え]

I have never been to America.

(私はアメリカに行ったことが1回もありません。)

I have not been to America.

(私はアメリカに行ったことはありません。)

Never.

(1回もありません。)

なお回数を表す表現は、「数字+times」を使います。ただ、1ならば time は単数のままで OK です。

- 1回 = one time
- 2回 = two times
- 3回 = three times

また、1回と2回は1語で表すことができます。

- 1回 = one time = once
- 2回 = two times = twice

意外とよく出ますので覚えて下さい。

現在完了（継続）

1. 現在完了（継続）の用法

現在完了の基礎は現在完了を参考にして下さい。

1 現在完了（継続）の意味

「ずっと～している」と訳し、昔から今までずっと何かが継続し続けていることを表現するときに使います。

2 現在進行形との違い

現在進行形と似ていますが、現在進行形進行形が「今現在動作中であること」を表すのに対し、現在完了は「昔からの継続中」を表します。では例文です。

例文：

[現在進行形]

I am studying English now.

（私は今英語を勉強しています。）

[現在完了継続]

I have studied English.

（私は英語を勉強してきました。）

進行形の文は、今まさにこのページをみている皆さんのことをいいます。

そして現在完了の文は、英語を勉強し続けている学生さん、社会人の方などにあてはまります。

3 過去形との違い

次の2文を見比べて下さい。

[過去形]

I was sick.

(私は病気でした。)

→ 今も病気なのかわからない

[現在完了]

I have been sick.

(私はずっと病気です。)

→ 今も病気である

過去形は昔のある時期のことを表すので、今の状態はわかりません。上の文だと、今は完治しているかもしれませんし、まだ闘病しているのかもしれません。

反対に、過去から現在までの継続を表す現在完了継続はその状態が続いています。よって、今も病気であることがわかります。

4 現在完了進行形との違い

継続が「～している」だということはわかりましたか。実は、継続で使う動詞は限られています。

[現在完了（継続）で使う動詞]

現在完了の継続で使う動詞は、状態を表す動詞です。

- be 動詞
- know
- have 等

[現在完了進行形で使う動詞]

現在完了進行形で使う動詞は、動作を表す動詞です。

- read
- study
- wait 等

ただし、動作を表す動詞も継続で使われることがあります。詳しくは現在完了進行形を参照して下さい。

では次に、現在完了（継続）でよく使われる語を紹介します。

2. 現在完了継続でよく使われる語

1 for +期間 （～の間）

例文：

He has been sick in bed for a week.
(彼は病気で一週間寝込んでいます。)

大変気の毒な例文になってしまいました。

We have not heard from John for ten years.
(私たちはジョンから10年間連絡をもらっていません。)

10年間、ジョンからの便りが無い状態が続いていることを、現在完了継続で表現しています。

また、便利な表現に for a long time （長い間）があります。

例文：

I have known her for a long time.
(彼女とは長い間の知り合いです。)

2 since + 過去の時点 (～以来)

例文：

I have wanted this book since 2000.

(私は2000年からこの本が欲しかったのです。)

買えばいいのに。よっぽど高い本なんじゃないか。

They have practiced baseball since last spring.

(彼らは去年の春からずっと野球の練習を続けています。)

3 How long + 現在完了の疑問文 (どのくらい～)

How long の形は how でも解説していますが、現在完了でも使えます。

例文：

How long have you stayed in America?

(あなたはどれくらいアメリカに滞在しているのですか。)

答えは for と since どちらを使っても構いません。ただ単に「For ～.」や「Since ～.」と答えるだけでも OK です。

[答え方]

I have stayed America for a year.

(私はアメリカに1年間滞在しています。)

I have stayed America since last year.

(私はアメリカに1年前から滞在しています。)

For a year.

(1年間です)

Since last year.

(1 年前からです)

現在完了（結果）

1. 現在完了（結果）の用法

現在完了の基礎は現在完了を参考にして下さい。

1 現在完了（結果）の意味

「～してその結果…である」と訳します。過去にあったことの結果が、今も残っていることを意味します。過去形との区別が重要です。

2 過去形との違い

次の2文を見比べて下さい。

[過去形]

Spring came.

（春が来た。）

→ 今も春なのかわからない

[現在完了]

Spring has come.

（春が来た。）

→ 今も春である

日本語だと同じ訳になるのでややこしいですね。でもこれには次のトリックがあります。

過去形は昔のある時期のことを表すので、今の状態はわかりません。上の文だと、今は夏かもしれませんし、まだ春なのかもしれません。

反対に、過去の結果が残っていることを表す現在完了（結果）は、その状態が続いていますので今も春であることがわかります。

では次に、現在完了（結果）でよく使われる語を紹介します。

2. 現在完了（完了）でよく使われる語

have gone to + 場所 （～に行った）

この表現はよく出ます。「～に行って今ここにはいない」との意味を含みます。

例文：

He has gone to America.

（彼はアメリカに行ってしまった。）

※今も日本にいない

現在完了（経験）の「**have been to + 場所**」と混同しないようにして下さい。

少し余談になりますが、現在完了（結果）の指導をしていて、一番多い質問が「結果と完了の区別ができない。」というものです。

テキスト等は、比較的区別が付きやすい文になっていますが、正直、洋書などではわからないものが多いです。

これ！ という判別方法はありません。ただ、現在完了が「過去～現在にまたがっているもの。」ということを理解していればよいと思います。

不定詞の構文

1. 疑問詞＋不定詞

この形はよくでるので、しっかり覚えて下さい。主な形は、

1. what to ～ ＝ 何を～べきか
2. where to ～ ＝ どこで～か
3. when to ～ ＝ いつ～か
4. how to ～ ＝ ～の仕方

この4つです。これらの不定詞が動詞の目的語になります。

例文：

I don't know what to say.

(私は何を言うべきかわかりません。)

He didn't remember where to get off a train.

(彼はどこで電車を降りるか覚えていませんでした。)

She taught me when to start the party.

(彼女はいつパーティーが始まるのか教えてくれました。)

They learned how to use this computer.

(彼らはこのコンピューターの使い方を学びました。)

2. 形式主語 It

○ It+be 動詞+形容詞+不定詞

名詞的用法で解説している通り、

My hobby is to collect stamps.

= To collect stamps is my hobby.

このように、第2文型は主語と目的語を入れ替えられることができます。では、次のような場合はどうでしょうか。

例文：

To solve this equation is easy.

$$S$$

V

C

(この方程式を解くことは簡単です。)

この文の S と C を入れ替えてみると、

Easy is to solve this equation.

(簡単はこの方程式を解くことです。)

「…なんじゃこれ。」となってしまいます。それもそのはず、形容詞は主語にはなれないからです。こういう場合に、形式主語 *it* の出番です。*it* を主語にして文を作ります。

作り方は、主語を It にして、不定詞の主語の部分を文末に持っていきます。

To solve this equation is easy.

→→→→→

↓

It is easy to solve this equation

これで完成です。次は「人」がでるパターンです。

○ It+be 動詞+形容詞+for 人+不定詞

上のパターンと似ています。上の例文を少し変えてやってみます。

例文：

To solve this equation is easy for him.

(彼にとってこの方程式を解くことは簡単です。)

「～にとって」を表す場合は、「～ for 」を使い、形容詞の直後に置きます。

作り方は、for があろうがなかろうが同じです。主語を It にして、不定詞の主語の部分を文末に持っていきます。

To solve this equation is easy for him.

↓

→→→→→→→

↓

It is easy for him to solve this equation.

非常によく出題されるパターンなので、必ず書き換えができるようにして下さい。

○ 主語＋find it＋形容詞＋不定詞（～がわかる）

形式主語 it を使った、この形も覚えて下さい。find には「見つける」の意味以外に、「わかる」の意味があります。例えば、

例文：

You will find the book interesting.

S V O C

(君はその本がおもしろいとわかるでしょう。)

この文は、O=C になっているので、S+V+O+C の第5文型です。この文を形式主語 it を使った文にしてみます。

このパターンで難しいのは、不定詞の動詞を補うことです。それぞれの文に合った動詞を補わなければなりません。この例文では、the book とあるので、read を補います。

You will find the book interesting.

→ You will find it interesting to read the book.

このようにすることができます。

3. It is+形容詞+of+人+不定詞

この形は、人の性質を表現する時につかうものです。例えばここで使う形容詞は、

- kind (親切的な)
- clever (賢い)
- rude (失礼な)

など、どのような人なのかを表す語です。次の文を見て下さい。

例文：

You are very kind to help me.

(私を手伝ってくれてどうもありがとうございます。)

この文を形式主語 It で表す場合は、「It is+形容詞+of+人+不定詞」の形に当てはめて、

→ It is very kind of you to help me.

これで完成です。ちなみにこの形の問題では、カッコの穴埋めで of を問うものが多いです。では、他の例文を挙げておきますので参考にして下さい。

例文：

He was very clever to get 100.

→ It was very clever of him to get 100.

(100点をとるなんて彼はとても賢かった。)

You are rude not to say good-bye to your friends.

→ It is rude of you not to say good-bye to your friends.

(友達に挨拶をしないなんて君は失礼だ。)

4. be 動詞＋不定詞

be 動詞＋不定詞で、「予定・義務・可能」を表すことができます。

○ 予定

例文：

We are to hold a meeting.

(私たちは会議をする予定です。)

○ 義務

例文：

You are to come by next Monday.

(次の月曜日までに来ることになっています。)

○

可能

可能を表す場合は、受動態を伴って否定文での使用が多いです。

例文：

This problem was not to be solved.

(この問題は解かれませんでした。)

この「be 動詞＋不定詞」の形はすごく便利なので必ず暗記して下さい。

5. S+V+O (人)＋不定詞

第3文型の文で O に不定詞が使われますが、

例文：

I want to buy this bike.

S V O

(私はこの自転車が欲しいです。)

この O が人になり、その後に不定詞がくるパターンを紹介します。例えば次の文を見て下さい。

例文：

I want you to buy this bike.

S V O (人) 不定詞

(私はあなたにこの自転車を買って欲しい。)

ここでは want を使いましたが、want 以外で使われる動詞はほとんど決まっています。

○ ask (頼む)

例文：

I asked him to come with me.

(私は彼と一緒に来てくれるように頼みました。)

○ tell (言う)

tell は軽い命令の意味になります。

例文：

She told me not to read her diary.

(彼女は私に日記を見るなと言いました。)

○ allow (許す)

例文：

My father allowed me to go shopping.

(お父さんは私が買い物に行くのを許してくれました。)

○ advise (助言する)

例文：

The coach advised them to do their best.

(コーチは彼らに全力を尽くすように助言しました。)

○ force (強いる)

例文：

A weather warning forced us not to go out.

(警報で外出できませんでした。)

6. too ~ to ... と ~ enough to ...

○ too ~ to ...

意味： 「とても～なので…できない」

例文：

You are too shy to make a speech.

(あなたはとても恥ずかしがりなのでスピーチができません。)

この構文では、書き換え問題がよく出題されます。

[so ~ that + 主語 + cannot + ...]

「too ~ to ...」の文は「so ~ that + 主語 + cannot + ...」の文に書き換えることができます。上の例文を書き換えると、

You are too shy to make a speech.

= You are so shy that you cannot make a speech.

このようになります。もう1つ例文を挙げます。

例文：

This question is too difficult for me to solve.
= This question is so difficult that I cannot solve it.
(この問題は難しすぎて私には解けません。)

書き換えた文の最後に it がついていることに注目です。that 以下で文が構成されますので、solve の目的語 it (=this question) が必要です。

○ ～ enough to …

意味： 「…するのに十分～だ」

例文：

You are old enough to get your driver's license.
(あなたは運転免許をとるのに十分な歳です。)

この文も上の「too ～ to …」と同様に書き換えがあります。ただし、enough の文は can を使います。

[so ～ that＋主語＋can＋…]

「～ enough to …」の文は「so ～ that＋主語＋can＋…」の文に書き換えることができます。上の例文を書き換えると、

You are old enough to get your driver's license.
= You are so old that you can get your driver's license.

このようになります。また、この書き換えは that 節を使うので、必要な場合は it を付け加えて下さい。

例文：

A fence was low enough for him to jump over.
= A fence was so low that he could jump over it.

(フェンスは低かったので彼は飛び越えられました。)

[so ~ as to ...]

「~ enough to ...」の文は「so ~ as to ...」の文に書き換えることもできます。上の例文を書き換えると、

例文：

You are old enough to get your driver's license.

= You are so old as to get your driver's license.

(あなたは運転免許をとるのに十分な歳です。)

このように、3つの表現が可能であることを覚えて下さい。では、上の書き換えで紹介した例文を再度まとめて、新しい例文も紹介しておきます。

例文：

「あなたは運転免許をとるのに十分な歳です。」

[~ enough to ...]

You are old enough to get your driver's license.

[so ~ that + 主語 + can + ...]

You are so old that you can get your driver's license.

[so ~ as to ...]

You are so old as to get your driver's license.

例文：

「彼女はとても親切なので私を駅まで案内してくれました。」

[~ enough to ...]

She was kind enough to show me to the station.

[so ~ that + 主語 + can + ...]

She was so kind that she could show me to the station.

[so ~ as to ...]

She was so kind as to show me to the station.

関係代名詞

1. 関係代名詞の働き

関係代名詞自体に意味はありません。関係代名詞は、2つの文をくっつける働きをします。例えば、

「私は本を持っています。」

「その本は日本の文化についての本です。」

この2つの文、おかしい所は全然ありません。でも皆さんなら、無意識に次のように言いませんか？

「私は日本の文化についての本を持っています。」

わざわざ2文にしなくても、1文で表せます。このような場合に使うのが、関係代名詞なのです。

2. 関係代名詞の格

関係代名詞は、形容詞節をつくり、名詞を修飾します。そして、その文中の働きによって、3つの種類に分かれます。

1. 主格
2. 所有格
3. 目的格

これらの詳細は、それぞれの専用のページで詳しく解説しています。

3. 先行詞

関係代名詞は形容詞節をつくれます。そして、その形容詞節が名詞を修飾します。この修飾される名詞を先行詞といいます。

4. 関係代名詞の種類

先行詞	主格	所有格	目的格
人	who	whose	who (whom)
人以外	which	whose	which
どちらでも	that	-	that

関係代名詞は2つの条件で決定されます。

1. 先行詞が人か人以外か
2. 関係代名詞がどんな格なのか

この2つの条件で使用する関係代名詞が決まります。上の表をご覧ください。例えば先行詞が人で主格なら **who** を使います。まずはこの表を暗記して下さい。

また、人の目的格は **who** と **whom** のどちらでも構いません。ただ、目的格は省略できるので、**who** も **whom** も無い場合が多いです。もちろん、目的格ならば、**which**, **that** も省略可能です。

関係代名詞主格

関係代名詞主格の英作文

関係代名詞が目的格の英作文は、

「先行詞＋関係代名詞主格＋動詞」

の語順になります。それでは、先行詞が人と人以外のそれぞれに分けて見ていきます。

1. 先行詞が人の場合

関係代名詞は文をくっつける役目をします。では実際にその流れをみていきます。

「私は少年を知っています。」
＋ 「彼はテニス選手です。」
＝ 「私はテニス選手の少年を知っています。」

このように作ってみます。

1 関係代名詞の選別方法

最初にそれぞれの文を英語に直します。

「私はある少年を知っています。」
→ I know a boy.
「彼はテニス選手です。」
→ He is a tennis player.

ここで関係代名詞の判別が可能になります。代名詞と名詞に注目します。代名詞は He です。またこの He は a boy のことです。そしてこの、

代名詞の指す名詞が先行詞

代名詞の格が関係代名詞の格

になります。ですからここで使う関係代名詞は、

先行詞＝a boy＝人

格＝He＝主格

となり、先行詞が人の場合の主格なので「who」を使います。(that も可です。詳しくは関係代名詞をご覧ください。)

関係代名詞の選別方法は理解して頂けましたか？ 2文で同じ意味の名詞と代名詞を見つけて、

名詞＝先行詞

代名詞の格＝関係代名詞の格

これで判別できることを覚えて下さい。

2 2文のくっつけ方

ここまでの学習で、

1 1 目の文は「I know a boy.」

2 2 目の文は「He is a tennis player.」

これら 2 文を関係代名詞 who でくっつける

ここまで進みました。ではどうやってくっつけるのか？それは、

1. 代名詞を関係代名詞に置き換える
2. 関係代名詞が先行詞の直後に来るように文をはめ込む

この手順で完成できます。では実際にくっつけてみます。

1 代名詞を関係代名詞に置き換える

I know a boy.
who is a tennis player.

2 関係代名詞が先行詞の直後に来るように文をはめ込む

I know a boy who is a tennis player.
(私はテニス選手の少年を知っています。)

これで完成です。関係代名詞を先行詞の直後にするのを忘れないで下さい。また、このページの最初にある、

「先行詞＋関係代名詞主格＋動詞」
(a boy＋who＋is)

この語順にもなっています。次は先行詞が人以外の例文です。

2. 先行詞が人以外の場合

1 と同じ流れで解説していきます。

「彼女は本を持っています。」
＋ 「それは日本歴史の専門書です。」
＝ 「彼女は日本歴史の専門書を持っています。」

このように作ってみます。

1 関係代名詞の選別方法

最初にそれぞれの文を英語に直します。

「彼女は本を持っています。」
→ She has a book.

「それは日本歴史の専門書です。」

→ It is about Japanese history.

ここで関係代名詞の判別が可能になります。代名詞と名詞に注目します。代名詞は It です。またこの It は a book のことです。そしてこの、

代名詞の指す名詞が先行詞

代名詞の格が関係代名詞の格

になります。

ですからここで使う関係代名詞は、

先行詞=a book=人以外

格=It=目的格

となり、先行詞が人以外の場合の目的格なので「which」を使います。(that も可です。詳しくは関係代名詞をご覧ください。)

関係代名詞の選別方法は理解して頂けましたか？2文で同じ意味の名詞と代名詞を見つけて、

名詞=先行詞

代名詞の格=関係代名詞の格

これで判別できることを覚えて下さい。

2 2文のくっつけ方

ここまでの学習で、

1 つ目の文は「**She has a book.**」

2 つ目の文は「**It is about Japanese history.**」

これら 2 文を関係代名詞 **which** でくっつける

ここまで進みました。ではどうやってくっつけるのか？それは、

1. 代名詞を関係代名詞に置き換える
2. 関係代名詞が先行詞の直後に来るように文をはめ込む

この手順で完成できます。では実際にくっつけてみます。

1 代名詞を関係代名詞に置き換える

She has a book.

which is about Japanese history.

2 関係代名詞が先行詞の直後に来るように文をはめ込む

She has a book which is about Japanese history.

(彼女は日本歴史の専門書を持っています。)

これで完成です。関係代名詞を先行詞の直後にするのを忘れないで下さい。また、このページの最初にある、

「先行詞＋関係代名詞主格＋動詞」

(**a book＋which＋is**)

この語順にもなっています。

関係代名詞は、最初は苦勞すると思います。でも練習をつめば必ずできるようになります。諦めないで学習して下さい。

関係代名詞所有格

関係代名詞所有格の英作文

関係代名詞が所有格の英作文は、

「先行詞＋関係代名詞所有格＋名詞」

の語順になります。それでは、先行詞が人と人以外のそれぞれに分けて見ていきます。

1. 先行詞が人の場合

関係代名詞は文をくっつける役目をします。では実際にその流れをみていきます。

「私はあちらの女性を知っています。」
＋ 「彼女の名前はナンシーです。」
＝ 「私はナンシーという名のあちらの女性を知っています。」

このように作ってみます。

1 関係代名詞の選別方法

最初にそれぞれの文を英語に直します。

「私はあちらの女性を知っています。」
→ I know that woman.
「彼女の名前はナンシーです。」
→ Her name is Nancy.

ここで関係代名詞の判別が可能になります。代名詞と名詞に注目します。代名詞は **her** です。またこの **her** は **that woman** のことです。そしてこの、

代名詞の指す名詞が先行詞
代名詞の格が関係代名詞の格

になります。ですからここで使う関係代名詞は、

先行詞=**that woman**=人
格=**her**=所有格

となり、先行詞が人の場合の所有格なので「**whose**」を使います。(詳しくは関係代名詞をご覧ください。)

関係代名詞の選別方法は理解して頂けましたか？2文で同じ意味の名詞と代名詞を見つけて、

名詞=先行詞
代名詞の格=関係代名詞の格

これで判別できることを覚えて下さい。

2 2文のくっつけ方

ここまでの学習で、

1 つ目の文は「**I know that woman.**」
2 つ目の文は「**Her name is Nancy.**」
これら2文を関係代名詞 **whose** でくっつける

ここまで進みました。ではどうやってくっつけるのか？それは、

1. 代名詞を関係代名詞に置き換える
2. 関係代名詞を文頭に持っていく
3. 関係代名詞が先行詞の直後に来るように文をはめ込む

この手順で完成できます。では実際にくっつけてみます。

1 代名詞を関係代名詞に置き換える

I know that woman.
whose name is Nancy.

2 関係代名詞を文頭に持っていく

I know that woman.
whose name is Nancy.
(※すでに文頭にあるので、この手順は飛ばしても構いません。)

3 関係代名詞が先行詞の直後に来るように文をはめ込む

I know that woman whose name is Nancy.
(私はナンシーという名のあちらの女性を知っています。)

これで完成です。関係代名詞を先行詞の直後にするのを忘れないで下さい。また、このページの最初にある、

「先行詞＋関係代名詞所有格＋名詞」
(that woman＋whose＋name)

この語順にもなっています。次は先行詞が人以外の文を作ってみます。

2. 先行詞が人以外の場合

1 と同じ流れで解説していきます。

「私は大きな家が見えます。」
＋ 「その屋根は青色です。」
＝ 「私は屋根が青色の大きな家が見えます。」

このように作ってみます。

1 関係代名詞の選別方法

最初にそれぞれの文を英語に直します。

「私は大きな家が見えます。」

→ I can see the big house.

「その屋根は青色です。」

→ Its roof is blue.

ここで関係代名詞の判別が可能になります。代名詞と名詞に注目します。代名詞は **Its** です。またこの **Its** は **the big house** のことです。そしてこの、

代名詞の指す名詞が先行詞

代名詞の格が関係代名詞の格

になります。

ですからここで使う関係代名詞は、

先行詞=the big house=人以外

格=Its=所有格

となり、先行詞が人以外の場合の所有格なので「**whose**」を使います。（詳しくは関係代名詞をご覧ください。）

関係代名詞の選別方法は理解して頂けましたか？2文で同じ意味の名詞と代名詞を見つけて、

名詞=先行詞

代名詞の格=関係代名詞の格

これで判別できることを覚えて下さい。

2 2文のくっつけ方

ここまでの学習で、

1 つ目の文は「I can see the big house.」

2 つ目の文は「Its roof is blue.」

これら 2 文を関係代名詞 **whose** でくっつける

ここまで進みました。ではどうやってくっつけるのか？それは、

1. 代名詞を関係代名詞に置き換える
2. 関係代名詞を文頭に持っていく
3. 関係代名詞が先行詞の直後に来るように文をはめ込む

この手順で完成できます。では実際にくっつけてみます。

1 代名詞を関係代名詞に置き換える

I can see the big house.

whose roof is blue.

2 関係代名詞を文頭に持っていく

I can see the big house.

whose roof is blue.

(※すでに文頭にあるので、この手順は飛ばしても構いません。)

3 関係代名詞が先行詞の直後に来るように文をはめ込む

I can see the big house whose roof is blue.

(私は屋根が青色の大きな家が見えます。)

これで完成です。関係代名詞を先行詞の直後にするのを忘れないで下さい。また、このページの最初にある、

「先行詞＋関係代名詞所有格＋名詞」

(the big house + whose + roof)

この語順にもなっています。

関係代名詞の所有格は比較的理解しやすいと思います。分からない方は、いろいろなパターンに対応できるように例文を暗記して下さい。

関係代名詞目的格

関係代名詞目的格の英作文

関係代名詞が目的格の英作文は、

「先行詞＋関係代名詞目的格＋主語＋動詞」

の語順になります。それでは、先行詞が人と人以外のそれぞれに分けて見ていきます。

1. 先行詞が人の場合

関係代名詞は文をくっつける役目をします。では実際にその流れをみていきます。

「私はその医者を知りません。」
＋ 「みんな彼を好きです。」
＝ 「私はみんなが好きな医者を知りません。」

このように作ってみます。

1 関係代名詞の選別方法

最初にそれぞれの文を英語に直します。

「私はその医者を知りません。」
→ I don't know the doctor.
「みんな彼を好きです。」
→ Everyone likes him.

ここで関係代名詞の判別が可能になります。代名詞と名詞に注目します。代名詞は **him** です。またこの **him** は **the doctor** のことです。そしてこの、

代名詞の指す名詞が先行詞
代名詞の格が関係代名詞の格

になります。ですからここで使う関係代名詞は、

先行詞=**a doctor**=人
格=**him**=目的格

となり、先行詞が人の場合の目的格なので「**who**」を使います。(whom, that も可です。詳しくは関係代名詞をご覧ください。)

関係代名詞の選別方法は理解して頂けましたか？2文で同じ意味の名詞と代名詞を見つけて、

名詞=先行詞
代名詞の格=関係代名詞の格

これで判別できることを覚えて下さい。

2 2文のくっつけ方

ここまでの学習で、

1 つ目の文は「**I don't know the doctor.**」
2 つ目の文は「**Everyone likes him.**」
これら2文を関係代名詞 **who** でくっつける

ここまで進みました。ではどうやってくっつけるのか？それは、

1. 代名詞を関係代名詞に置き換える
2. 関係代名詞を文頭に持っていく
3. 関係代名詞が先行詞の直後に来るように文をはめ込む

この手順で完成できます。では実際にくっつけてみます。

1 代名詞を関係代名詞に置き換える

I don't know the doctor.

Everyone likes who.

2 関係代名詞を文頭に持っていく

I don't know the doctor.

who Everyone likes.

3 関係代名詞が先行詞の直後に来るように文をはめ込む

I don't know the doctor who everyone likes.

(私はみんなが好きな医者を知りません。)

これで完成です。関係代名詞を先行詞の直後にするのを忘れないで下さい。

また、このページの最初にある、

「先行詞＋関係代名詞目的格＋主語＋動詞」

(the doctor＋who＋everyone＋likes)

この語順にもなっています。最初は苦労すると思いますが、試験では必須なので理解できるまで何度も学習して下さい。

2. 先行詞が人以外の場合

1 と同じ流れで解説していきます。

「机の上に本があります。」

＋ 「私はそれを昨日読みました。」

＝ 「私が昨日読んだ本が机の上にあります。」

このように作ってみます。

1 関係代名詞の選別方法

最初にそれぞれの文を英語に直します。

「机の上に本があります。」

→ **There is a book on the desk.**

「私はそれを昨日読みました。」

→ **I read it yesterday.**

ここで関係代名詞の判別が可能になります。代名詞と名詞に注目します。代名詞は **it** です。またこの **it** は **a book** のことです。そしてこの、

代名詞の指す名詞が先行詞

代名詞の格が関係代名詞の格

になります。

ですからここで使う関係代名詞は、

先行詞=**a book**=人以外

格=**it**=目的格

となり、先行詞が人以外の場合の目的格なので「**which**」を使います。(that も可です。詳しくは関係代名詞をご覧ください。)

関係代名詞の選別方法は理解して頂けましたか？2文で同じ意味の名詞と代名詞を見つけて、

名詞=先行詞

代名詞の格=関係代名詞の格

これで判別できることを覚えて下さい。

2 2文のくっつけ方

ここまでの学習で、

1 つ目の文は「There is a book on the desk.」

2 つ目の文は「I read it yesterday.」

これら 2 文を関係代名詞 **which** でくっつける

ここまで進みました。ではどうやってくっつけるのか？それは、

1. 代名詞を関係代名詞に置き換える
2. 関係代名詞を文頭に持っていく
3. 関係代名詞が先行詞の直後に来るように文をはめ込む

この手順で完成できます。では実際にくっつけてみます。

1 代名詞を関係代名詞に置き換える

There is a book on the desk.

I read which yesterday.

2 関係代名詞を文頭に持っていく

There is a book on the desk.

which I read yesterday.

3 関係代名詞が先行詞の直後に来るように文をはめ込む

There is a book which I read yesterday on the desk.

(私が昨日読んだ本が机の上にあります。)

これで完成です。関係代名詞を先行詞の直後にするのを忘れないで下さい。

また、このページの最初にある、

「先行詞＋関係代名詞目的格＋主語＋動詞」

(a book＋which＋I＋read)

この語順にもなっています。

関係代名詞の目的格はかなり難しいと思います。個人的には、目的格が一番難しいと思います。何度も問題を解いてコツをつかんで下さい。

must と have to

1. 2つの意味

must と **have to** は、両方とも中学校で学習します。なぜか印象に残る単語なので、英語が苦手な方でも覚えている、何かと魅力的な言葉です。

そのお陰もあって、意味が「～しなければならない」というのは、すでに皆さんご存知だと思います。さらに「**must = have to**」であることも有名です。

しかし実際は、**must** と **have to** は少し意味が異なります。その違いは以下の通りです。

2. **must** は主観的

「～しなければならない」の基本的な意味は **have to** と同じですが、**must** は「主観的に～しなければならない」と思う場合に使います。

“主観的”ではピンとこないかもしれませんが、簡単には「個人的にそう思う場合」に使うのが **must** です。

また、**must** には「命令」の意味が含まれるので、使う場合には注意が必要です。

例文 1

I must buy a new car.

(新しい車を買わなければならない。)

You must go there.

(君はそこに行く必要がある。)

※命令の意味を含む

We must practice more.

(我々はもっと練習する必要がある。)

これらのように、自分自身が「～しなければならない」と感じる場合に **must** を使います。

ただ、下の例文のように例外もあります。

例文 2

All passengers must wear seat belts.

(シートベルトを着用すること。)

飛行機のシートに書いている文です。この場合、「個人的に必要とを感じるから」と当てはめるのには無理があります。

これは「ルールを表す **must** 」です。乗り物・お店等にかかれている規則には **must** が使われているはずです。

3. **have to** は客観的

「～しなければならない」の基本的な意味は **must** と同じですが、**have to** は「客観的に～しなければならない」場合に使います。

“客観的”ではピンとこないかもしれませんが、簡単には「誰もがそう思う場合」に使うのが **have to** です。

違いがよくわかるように、**must** の例文 1 を **have to** で表します。

例文

I have to buy a new car.

(新しい車を買わなければならない。)

※誰がみても車が必要である場合

You have to go there.

(君はそこに行く必要があると思う。)

※待ち合わせをしている等、相手にとって必要がある場合

We have to practice more.

(我々はもっと練習する必要がある。)

※全く試合に勝てない等、明らかに練習不足である場合

これらのように、客観的に（相手にとって）「～しなければならない」と感じる場合に **have to** を使います。

must と **have to** を間違えて使っても、意味が全く伝わらないことはほとんどありませんが、このような違いがあることを覚えておくと便利です。

接続詞 3

ここでは if と whether を紹介します。

1. if, whether の意味

if, whether は共に「～かどうか」を意味し、that と同じように名詞節を作ります。
ほとんどの場合、if と whether のどちらを使っても構いません。

例文：

I know whether you were sick.

S V O (名詞節)

= I know if you were sick.

(私は君が病気だったかどうかを知っている。)

2. if, whether の用法

if, whether は名詞節を作るので名詞と同じ働きをします。だから、「主語・補語・目的語」になることができます。

1 主語になるパターン

○ It is … whether (if) ～.

意味： 「～かどうかは…だ」

「whether (if) ～」をそのまま主語にしても構いませんが、主語になる場合は形式主語の it を用いるのが一般的です。

例文：

[形式主語 It]

It is uncertain whether you studied.

形式主語 真主語

(君が勉強をしたかどうかはわからない。)

※こちらのほうが一般的です

[whether (if) ～ をそのまま主語]

Whether you studied is uncertain.

S V C

(君が勉強をしたかどうかはわからない。)

※形式主語 It を使うほうが一般的です

このように、形式主語 It を使っても使わなくても英作はできますが、It を使ったほうが一般的です。では、もう 1 つ例文を紹介します。

例文：

It isn't problem whether you lost the game.

= It isn't problem if you lost the game.

(君が試合に負けたかどうかは問題ではない。)

2 補語になるパターン

○ …+is+whether 〜.

意味： 「…は〜かどうかだ」

補語になる場合、通常 if は使いません。

例文：

The problem is whether it rains.

S V C

(問題は雨が降っているかどうかだ。)

The question is whether the door was locked.

S V C

(問題はドアがカギをされていたかどうかです。)

3 目的語になるパターン

目的語になる場合は、通常 2 通りのパターンがあります。

○ 主語＋動詞＋**whether (if)** ～.

意味： 「…が～かどうかは…」

例文：

I don't know whether they were here.

S V O

= I don't know if they were here.

(私は彼らがここにいたかどうか知らない。)

○ 主語＋**be**＋形容詞＋**whether (if)** ～.

意味： 「…が～かどうかは…」

例文：

I am not sure whether you didn't do such a thing.

(私は君がそんなことをしてないかどうか確信してない。)

受け身

1. 受け身とは？

受け身とは、「～される」を意味する表現です。「be 動詞＋過去分詞」の形を使います。「受動態」と呼んでも構いません。

過去分詞を知らないとこの文はできません。大変ですが、教科書や辞書で確認して覚えていくしかありません。ちなみに、「～する」の形の文は能動態といいます。

本文に入る前に、まずは能動態の文をみて下さい。

I like this book.

(私はこの本が好きです。)

この文を受け身の「～される」の文にしてみます。やり方は簡単です。日本語で主語と目的語を入れ換えて、同じ意味の文を作ると自然に受け身の文になります。

主 語＝私は

目的語＝この本が

これを入れ換えると、

「この本は私に好かれています。」

このように、受け身の文ができあがります。時々ですが、受け身自体が分からない方がいらっしやいます。そういう方は、まずは日本語で訓練してみてください。

2. 受け身の英作文

1 肯定文

主語＋be 動詞＋過去分詞＋～ by＋人.

「…（誰）によって」を表す場合は by を使います。

例文： この本は私に好かれています。

⇒ まずは単語に

この本は 私に 好かれています。

(this book)(by me) (is liked).

⇒ これを 主語＋述語＋～. に並べると、

This book is liked by me. (完成)

これで OK です。もっと簡単にやり方を定義すると、

- 主語と目的語を入れ換える
- be 動詞＋過去分詞の形にする
- 必要に応じて by＋人 を加える

この流れで英作をすれば受け身が完成します。

また、受け身の文は be 動詞の文なので、過去形や未来形にするには、「be 動詞を過去にする」「will をつける」だけで OK です。

例文：

[過去形]

The story was written by him ten years ago.

(その話は10年前に彼によって書かれました。)

[未来形]

A new building will be built here.

(ここに新しいビルが建てられるでしょう。)

2 否定文

主語＋be 動詞＋not＋過去分詞＋～ by＋人.

受け身は be 動詞の文なので、否定文は「be 動詞＋not」の形にします。未来形の場合は「will not be＋過去分詞」にしてください。

例文：

[現在形]

This story is not written by him.

(この話は彼によって書かれません。)

[過去形]

This story was not written by him.

(この話は彼によって書かれませんでした。)

[未来形]

This story will not be written by him.

(この話は彼によって書かれないでしょう。)

3 疑問文

be 動詞＋主語＋過去分詞＋～ by＋人.

受け身は be 動詞の文なので、疑問文は be 動詞を文頭にします。未来形の場合は will を文頭にして下さい。

例文：

[現在形]

Is this book bought by her?

(この本は彼女によって買われますか。)

[過去形]

Was this book bought by her?

(この本は彼女によって買われましたか。)

[未来形]

Will this book be bought by her?

(この本は彼女によって買われる予定ですか。)

「はい」の場合

Yes, +主語+be 動詞.

「いいえ」の場合

No, +主語+be 動詞+ not.

疑問文に合わせて主語を変化させて下さい。ただし、未来形の場合は will を使って答えてください。

例文：

[疑問文]

Is this book bought by her?

(この本は彼女によって買われますか。)

[答え]

Yes, it is.

(はい、買われます。)

No, it isn't.

(いいえ、買われません。)

[疑問文]

Was this book bought by her?

(この本は彼女によって買われましたか。)

[答え]

Yes, it was.

(はい、買われました。)

No, it wasn't.

(いいえ、買われていません。)

[疑問文]

Will this book be bought by her?

(この本は彼女によって買われる予定ですか。)

[答え]

Yes, it will.

(はい、そうです。)

No, it won't.

(いいえ、ちがいます。)

3. 受け身の応用

1 S+V+O+不定詞の受け身

S+V+O+不定詞の文を受け身にするには、過去分詞の直後に不定詞を持っていきます。

例文：

[能動態]

I asked him to use his pen.

(私は彼に彼のペンを使っていいか尋ねた。)

[受け身]

He was asked to use his pen by me.

(彼は私に彼のペンを使っていいか尋ねられた。)

2 第4文型の受け身

第4文型は、「S+V+O+O」の目的語が2つある文です。目的語が2つあるので、どちらを主語にするか迷うと思います。しかし実は、これにもパターンがあります。

○ どちらの目的語も主語にできるパターン

例文：

My father gave me a bat.

S V O O

(父は僕にバットをくれました。)

[間接目的語 (人) が主語]

I was given a bat by my father.

(私は父にバットを与えられました。)

[直接目的語 (物) が主語]

A bat was given to me by my father.

(バットは父によって私に与えられました。)

※この場合は「～に」を意味する to が必要です。

○ 一方の目的語だけ主語にできるパターン

このパターンは、日本語で OK なので完成した文を想像するとわかると思います。一度両方で例文を作ってみますので、見比べて下さい。

例文：

She made him a cake.

S V O O

(彼女は彼にホットケーキを作った。)

[間接目的語 (人) が主語]

× He was made a cake by her.

(彼は彼女によってケーキに作られた。)

※ありえないことです…

[直接目的語 (物) が主語]

○ A cake was made for him by her.

(ケーキは彼女によって彼のために作られた。)

※この場合は「～のために」を意味する for が必要です。

2つをみると一目瞭然です。間接目的語 (人) を主語にした文は明らかにおかしいです。どちらの目的語を主語にするのかわからない場合は、1度両方の目的語で受け身

を作ってから判断すればいいと思います。

3 第5文型の受け身

第5文型は、「S+V+O+C」の文です。第5文型の場合は、O（目的語）を主語にして受け身を作ることができます。

例文：

[能動態]

I will name my dog Boss.

（私は自分の犬にボスと名づけるつもりです。）

[受け身]

My dog will be named Boss by me.

（私の犬は私にボスと名づけられるでしょう。）

4 Who が主語の疑問文の受け身

○ **By whom + be 動詞 + ～ + 過去分詞?**

Who が主語の文を受け身にするには、「**By whom + be 動詞 + ～ + 過去分詞?**」の形を使います。

例文：

[能動態の疑問文]

Who discovered America?

（誰がアメリカを発見しましたか。）

[受け身の疑問文]

By whom was America discovered?

（アメリカは誰によって発見されましたか。）

5 原形不定詞の受け身

知覚動詞や使役動詞を使う原形不定詞の文を受け身にするには、「be 動詞＋過去分詞＋to」の形にします。to を加えることを忘れないで下さい。

例文：

[能動態]

I saw her go into the building.

(私は彼女がビルに入るのを見ました。)

[受け身]

She was seen to go into the building by me.

(彼女はビルに入るのを私に見られました。)

[能動態]

My father makes me clean my room.

(お父さんは私に部屋を片付けさせます。)

[受け身]

I am made to clean my room by my father.

(私はお父さんに部屋を片付けさせられます。)